三九五八番

ま幸くと　言ひてしものを　白雲に　立ちたなびくと　聞けば悲しも

三九五九番

かからむと　かねて知りせば　越の海の　荒磯の波も　見せましものを

相歓ぶる歌二首　越中守大伴宿禰家持の作

三九六〇番

庭に降る　雪は千重敷く　然のみに　思ひて君を　我が待たなくに

三九六一番

白波の　寄する磯廻を　漕ぐ舟の　梶取る間なく　思ほえし君